

平成29年度決算(案) 説明資料

相互会社としての使命 P1	基礎利益の状況(2社合算) P10
経営の差別化の歴史 P2 ~ P3	健全性の状況 P11
平成29年度決算(案)のポイント P4	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール P12
保険業績の状況(2社合算) P5 ~ P6	平成29年度決算(案)にもとづく社員配当金 P13
保険料等収入の状況(2社合算) P7	(ご参考)主要業績 P14 ~ P17
資産運用の状況(富国生命単体) P8 ~ P9		

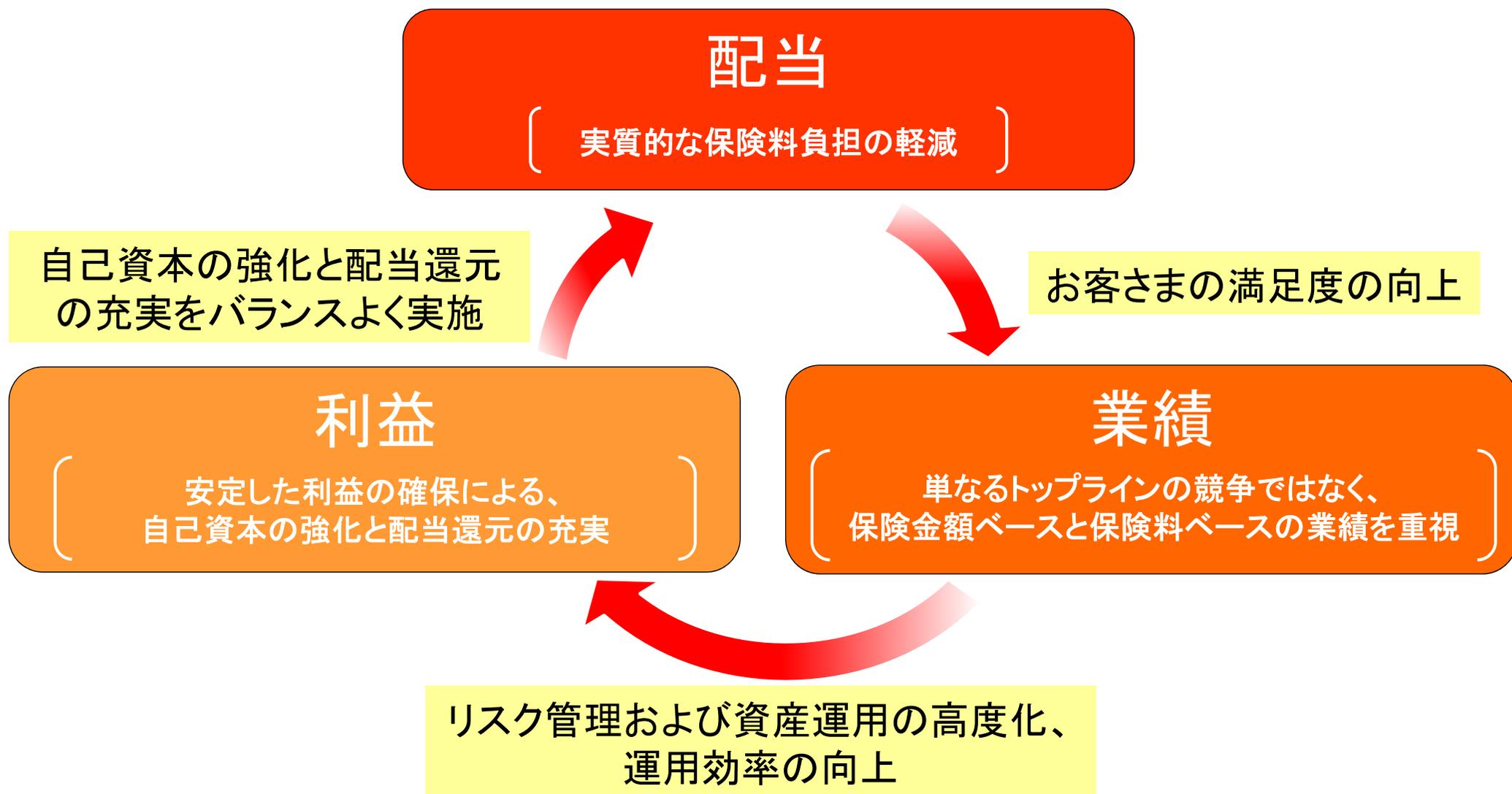
平成30年5月25日

富国生命保険相互会社

すてきな未来応援します

フコク生命

相互会社としての使命



安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。

経営の差別化の歴史

自主独立路線のもと、経営の差別化を図る

保険販売・商品戦略

■ 「お客さま基点」に向けた取組みを開始【2005(H17)年度】

■ 「お客さま基点」を価値観に位置付ける【2008(H20)年度】

■ 『「お客さま基点」の業務運営方針』公表【2017(H29)年度】

■ 徹底した差別化でお客さまから最も評価される会社へ

■ 業界初の保障内容を盛り込んだ医療保険『医療大臣プレミアエイト』を発売【2016(H28)年度】

■ 生保業界初となる特約組立型の主力商品『未来のとびら』を発売【2013(H25)年度】

■ 窓販チャネルを子会社(フコクしんらい生命)に分離【2008(H20)年度】

■ セコム損保との提携による生損保セット型商品の提供【2004(H16)年度】

■ 金融機関窓販への反対論が多い中、将来を見据えて参入【2002(H14)年度】

■ 自己責任原則が浸透していない中、「変額保険」は販売せずの方針

■ 医療保険の提供による第三分野への注力【1983(S58)年度】

■ 他社に先駆けて「保有純増主義」を打ち出す【1981(S56)年度】

■ 継続率改善への取り組み

■ 効率的な職域営業の取り組みを開始

■ 経営理念：ご契約者の利益擁護

■ 『最大たらんよりは最優たれ』

創業95周年

■ 円高局面で外国公社債を積み増し⇒収益性向上

■ 金融資本市場が混乱する中、リスク性資産を機動的に圧縮

■ 基金の証券化、ユーロ建劣後債発行等の資金調達の多様化

■ 不透明な運用環境の中、流動性を重視し、国内公社債中心の運用へシフト

■ リスク性資産(不動産・株式)への投資を抑制

■ 本社ビルの建設【1980(S55)年】

■ 業界初の平準純保険料式責任準備金の積立【1961(S36)年度決算】

■ 高度経済成長の始まりにおいて、株式投資に積極的に取り組む

資産運用戦略

財務戦略

経営の差別化の歴史～保険販売・商品戦略～

第三分野への取組み

H12～ 介護保険

H15～ 新介護保険
H21～要介護1から保障

H23～ 就業不能状態を保障

H25～ 特約組立型 総合保険

万への備え

身体障がい・介護への備え

就業不能への備え

保険料払込免除

ちょうどいい、わたしの保険
未来のとびら

S58～ 医療保険

H13～ 医療大臣

H21～ 医療大臣
日帰り入院からきっちり保障の医療保険

H28～ 医療大臣 プレミアエイト
8大疾病をしっかり保障

従来の保障内容をバージョンアップ
8大生活習慣病による長期入院や
出産など業界初の保障も拡充

業界初の医療特約

S62～ 通院特約

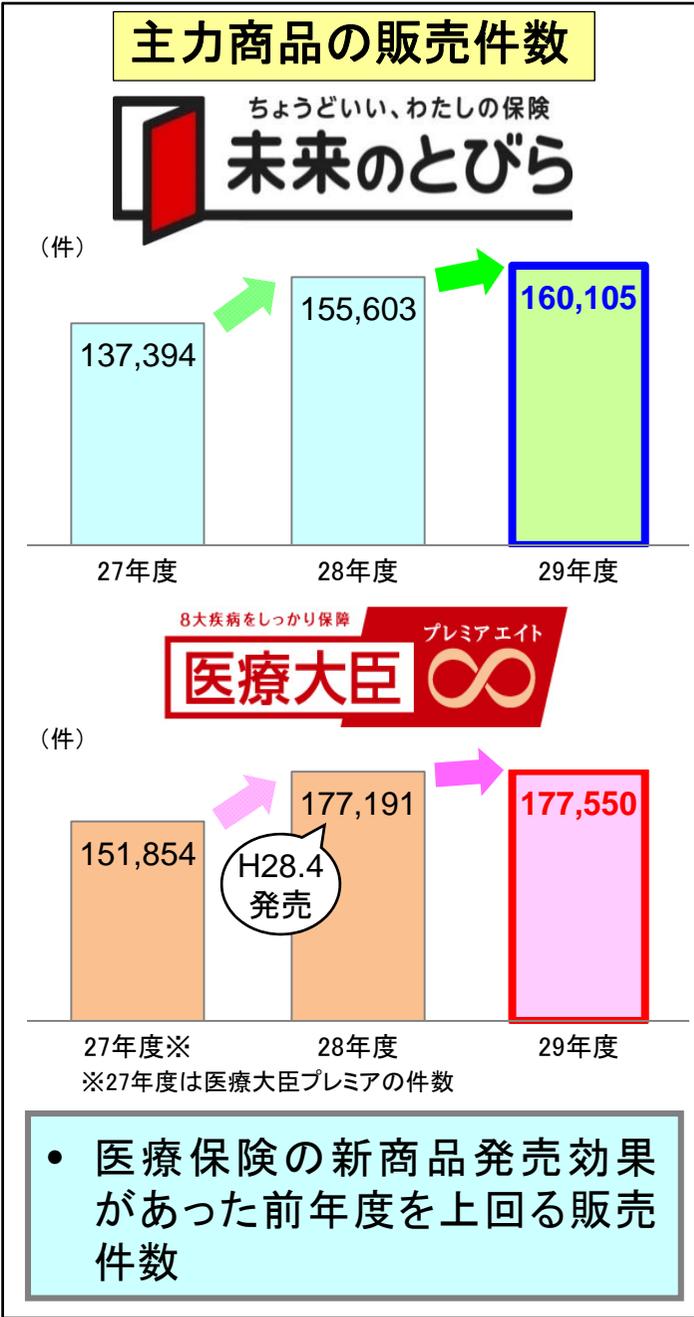
H4～ 高度先進医療特約

H14～ 移植医療特約

生損保セット型商品の提供

H16～ セコム損保のガン保険
「自由診療保険メディコムプラス」
(H21.1～ 補償範囲を通院によるがん治療まで拡大)

- 昭和58年より医療保険を提供するなど、第三分野に注力
- 平成23年5月より就業不能保障特約を発売(累計販売件数:46万件)
- 業界に先駆けた商品開発(特約組立型総合保険、移植医療特約など)



平成29年度決算(案)のポイント

主力商品の販売件数は堅調に推移

- ◆ 予定利率引下げによる貯蓄性商品の販売減や一時払商品の売止めなどにより、富国生命・フコクしんらい生命2社合算の新契約高・新契約年換算保険料は減少したものの、富国生命の主力商品である「未来のとびら」および医療保険「医療大臣プレミアエイト」の販売件数は堅調に推移
- ◆ 販売件数は、「未来のとびら」が前年度比2.9%増加の160,105件、「医療大臣プレミアエイト」が前年度比0.2%増加の177,550件

第三分野の保有契約年換算保険料は引き続き増加

- ◆ 保有契約年換算保険料は、富国生命・フコクしんらい生命ともに減少したものの、第三分野については前年度末比1.5%増加の1,124億円と引き続き増加傾向

基礎利益は開示以来最高

- ◆ 富国生命単体の基礎利益は、前年度比9.6%増加の974億円と、平成12年度の開示以来最高
- ◆ 2社合算の基礎利益は、前年度比7.6%増加の984億円となり、開示以来最高

引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から129.9ポイント低下となったものの、1,127.4%と引き続き高い水準を維持

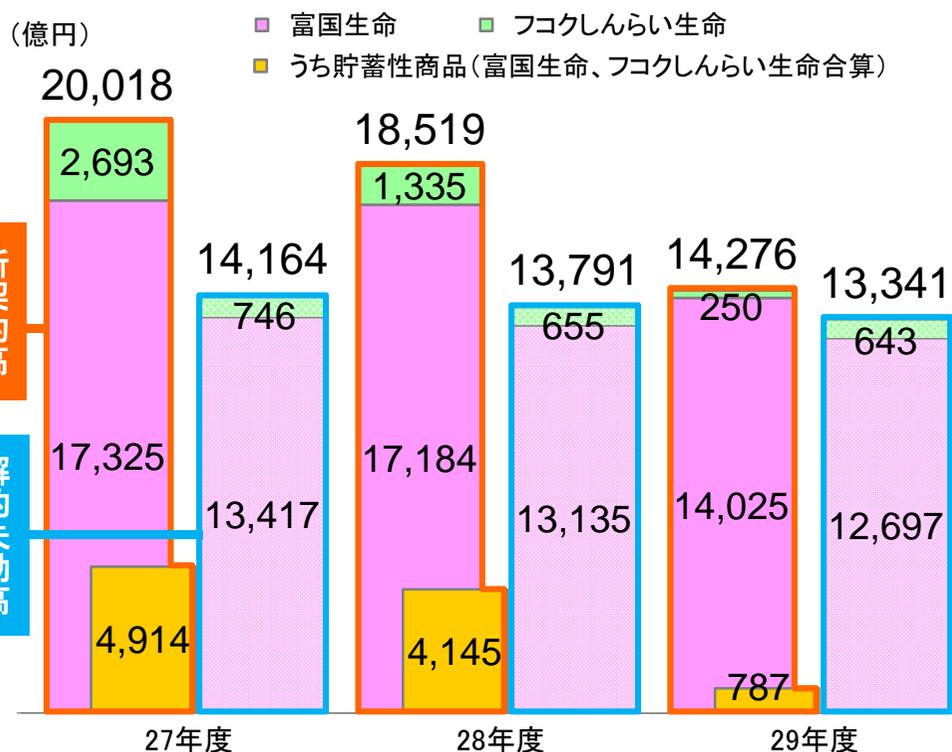
個人保険は6年連続増配

- ◆ 平成30年4月の料率改定を踏まえ、改定前のご契約に対して予定死亡率の差相当を配当還元し、公平性を確保
- ◆ 今後も配当還元の充実を通じて、お客さまの実質的な保険料負担の軽減を図る

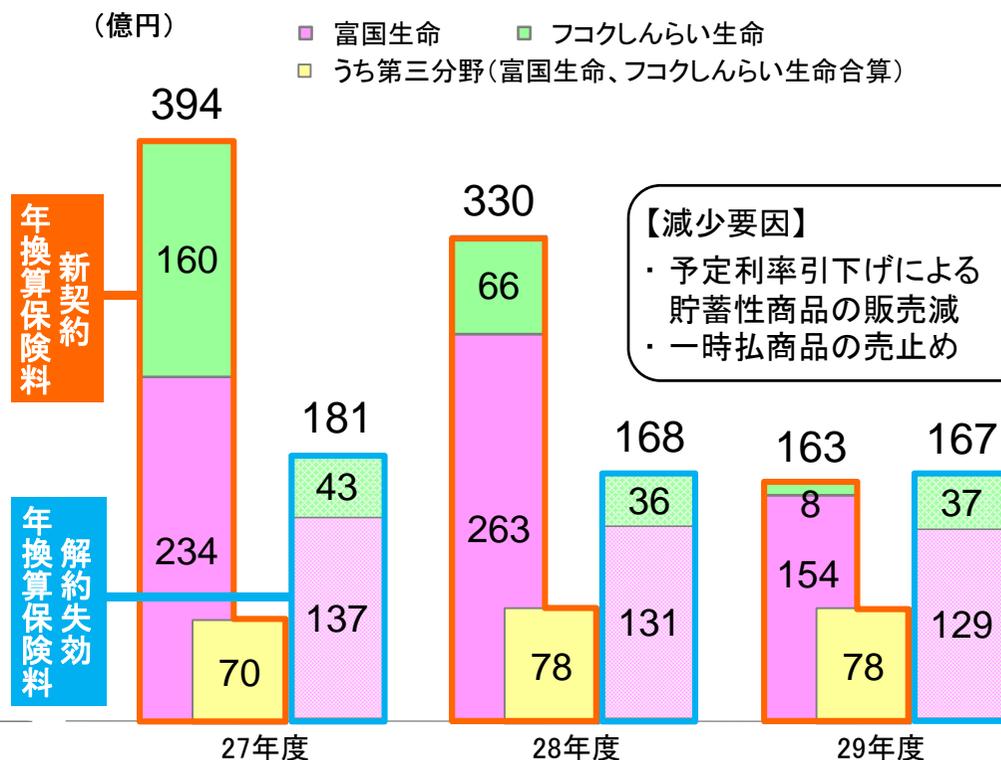
保険業績の状況(2社合算) ～新契約・解約失効～

※個人保険と個人年金の合計

新契約高・解約失効高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



新契約・解約失効年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



【減少要因】

- ・ 予定利率引下げによる貯蓄性商品の販売減
- ・ 一時払商品の売止め

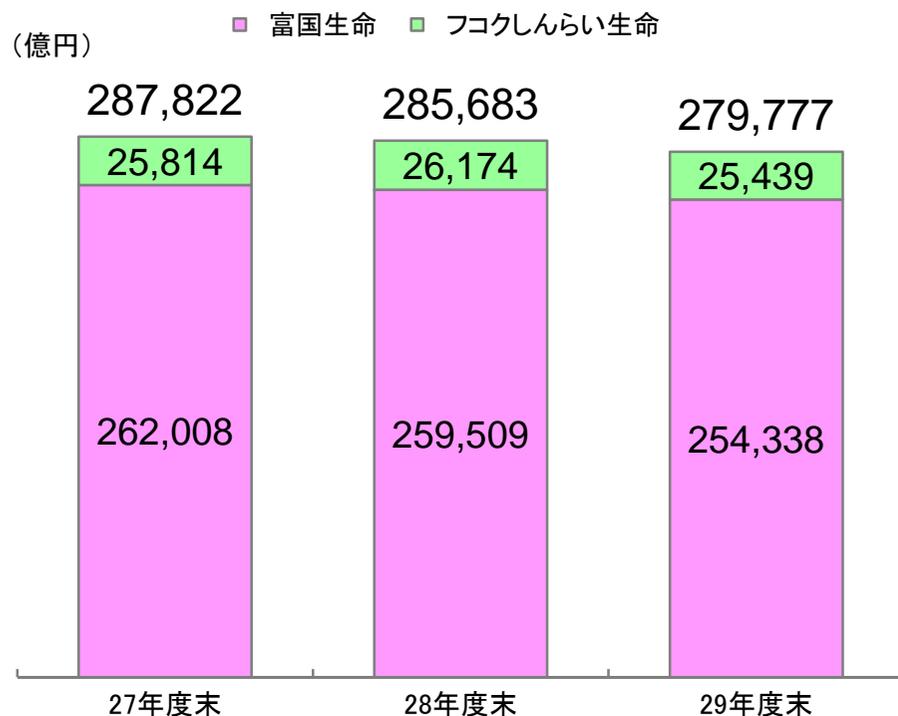
- 新契約高は富国生命、フコクしんらい生命ともに減少し、前年度比22.9%減少
- 解約失効高は前年度比3.3%減少し、前年度に引き続き改善

- 新契約年換算保険料は前年度比50.6%減少
- 解約失効年換算保険料は前年度比0.5%減少し、前年度に引き続き改善
- 第三分野の新契約年換算保険料は新商品発売効果のあった前年度と同水準

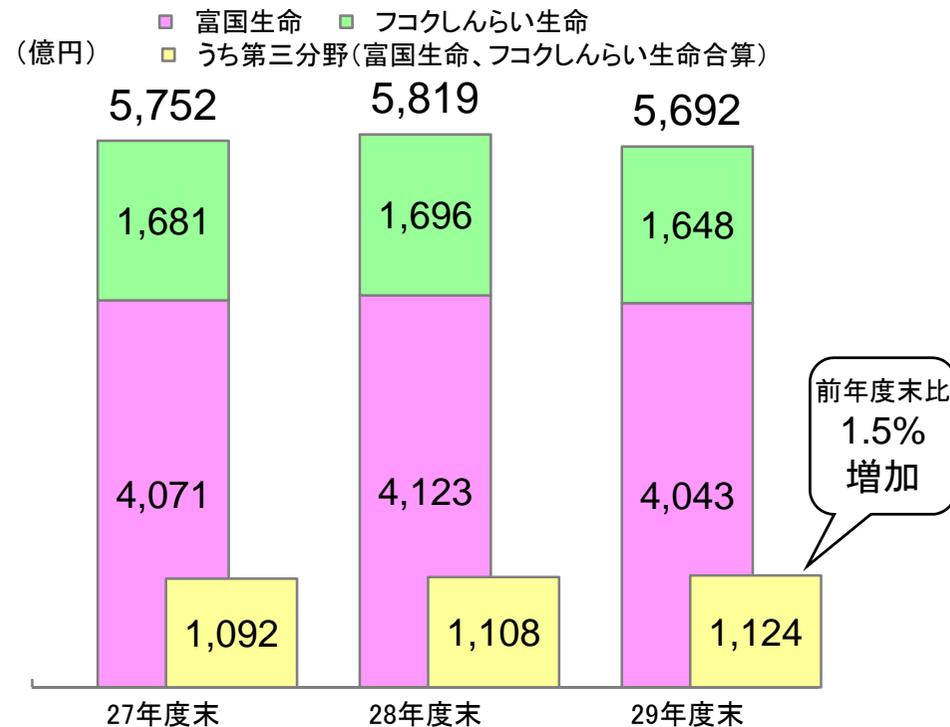
保険業績の状況(2社合算) ～保有契約～

※個人保険と個人年金の合計

保有契約高の推移
(富国生命、フコクしんらい生命合算)



保有契約年換算保険料の推移
(富国生命、フコクしんらい生命合算)

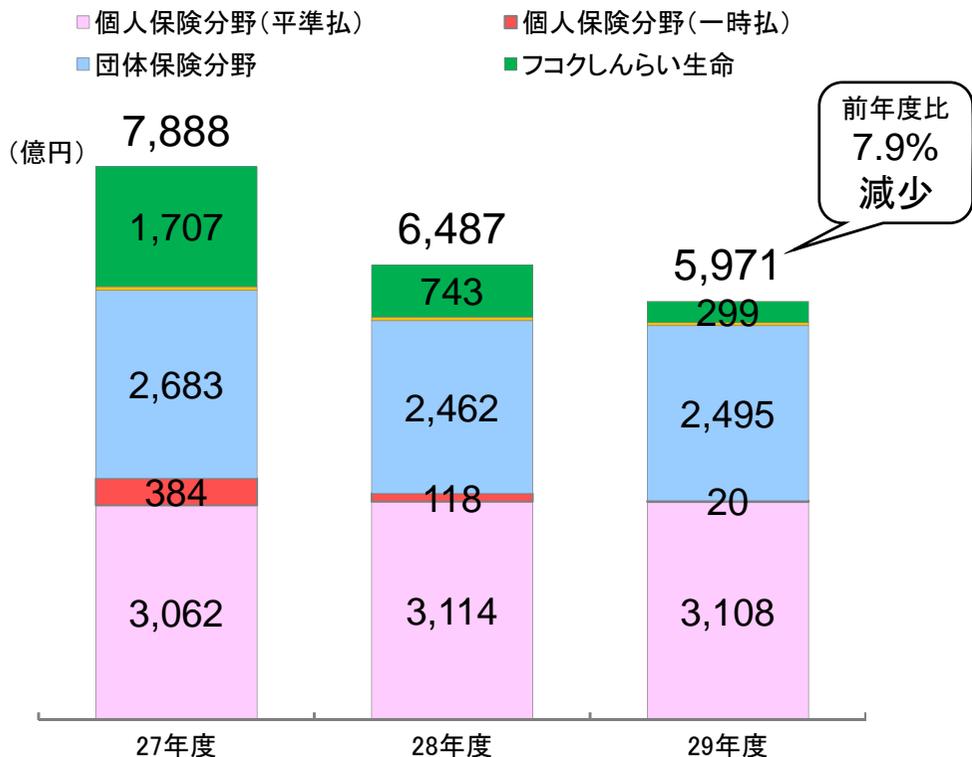


- 保有契約高は前年度末比2.1%減少
- 貯蓄性商品の影響により減少
- 保有契約高の反転増加に向けて引き続き取り組む

- 保有契約年換算保険料は、富国生命、フコクしんらい生命ともに減少し、前年度末比2.2%減少
- うち、第三分野の保有契約年換算保険料は前年度末比1.5%増加の1,124億円

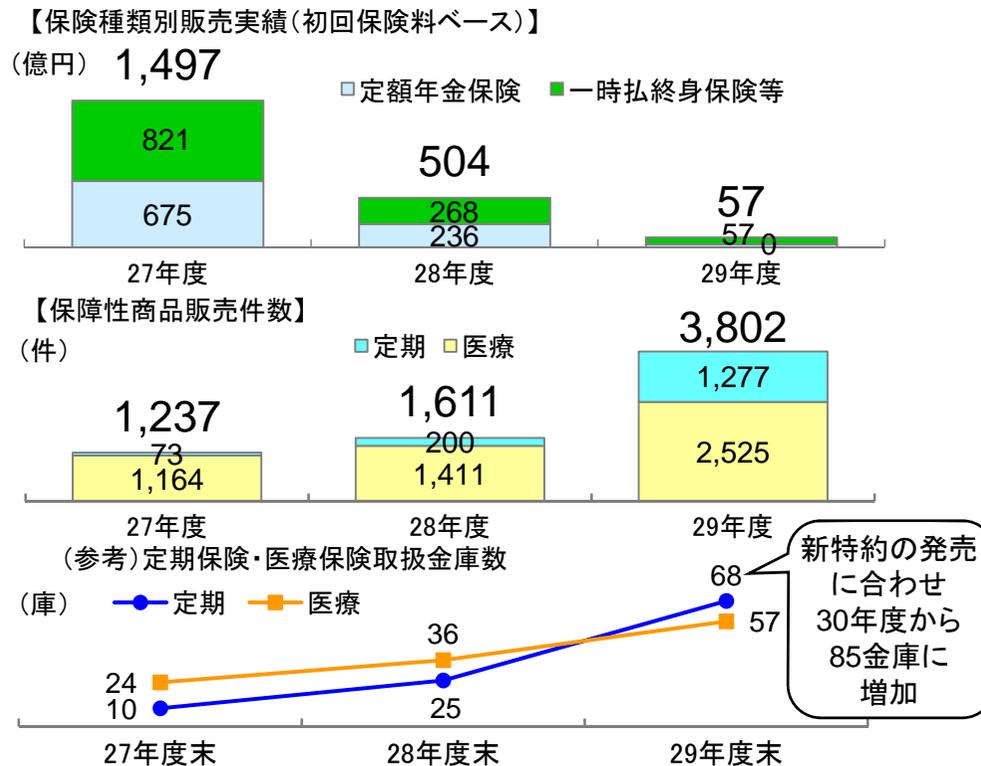
保険料等収入の状況(2社合算) ~ 保険料等収入・金融機関窓販 ~

保険料等収入の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



- 保険料等収入は富国生命の個人保険分野の一時払契約やフコクしんらい生命の減少などにより、前年度比7.9%減少
- 富国生命の個人保険分野の平準払は堅調に推移

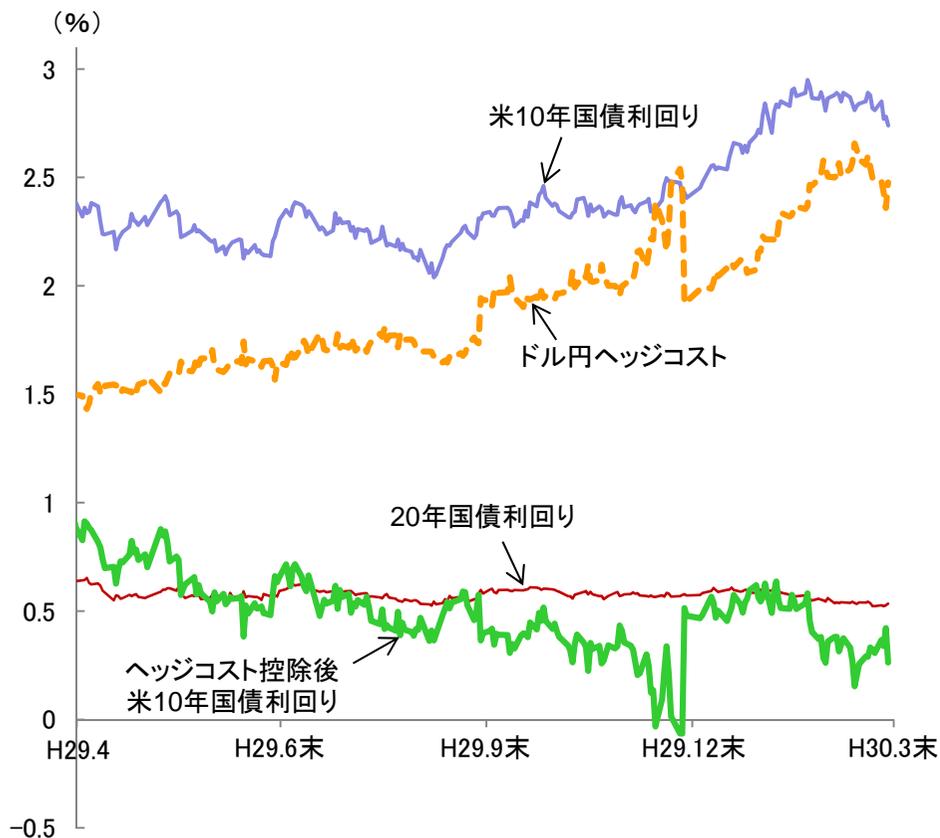
金融機関による保険販売の状況 (フコクしんらい生命)



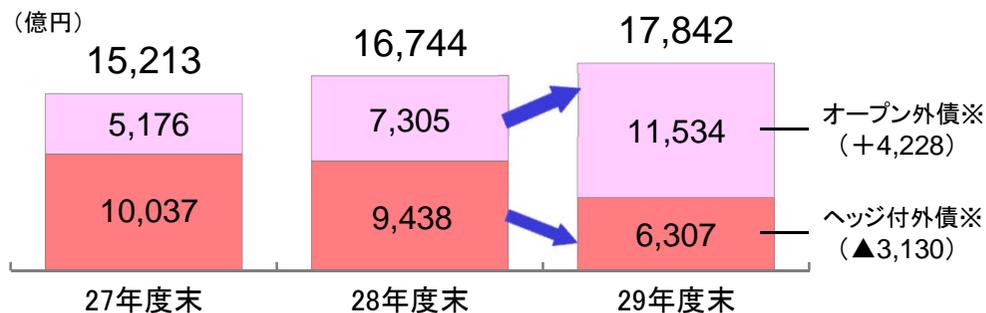
- 一時払終身保険は平成29年7月より信用金庫チャネルにおいて販売を再開したものの、前年度比減少
- 保障性商品は件数伸展、取扱金庫も着実に増加
- 平成30年4月からは信用金庫業界初の認知症診断給付金付介護保障定期保険特約を発売
- 今後も保障性商品の販売に注力

資産運用の状況(富国生命単体)

内外公社債の運用環境

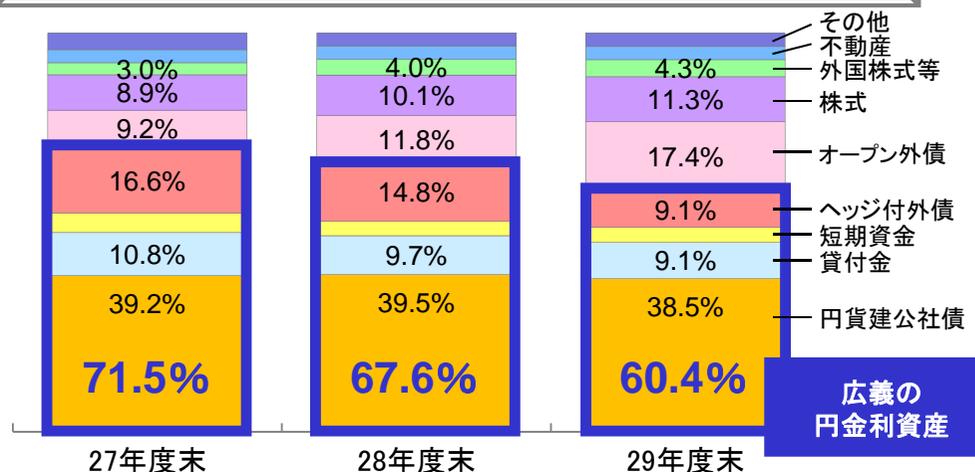


外貨建債券(帳簿価額)の内訳



※ 損益計算書に計上した外貨建公社債の評価損益・為替換算損益を控除したもの

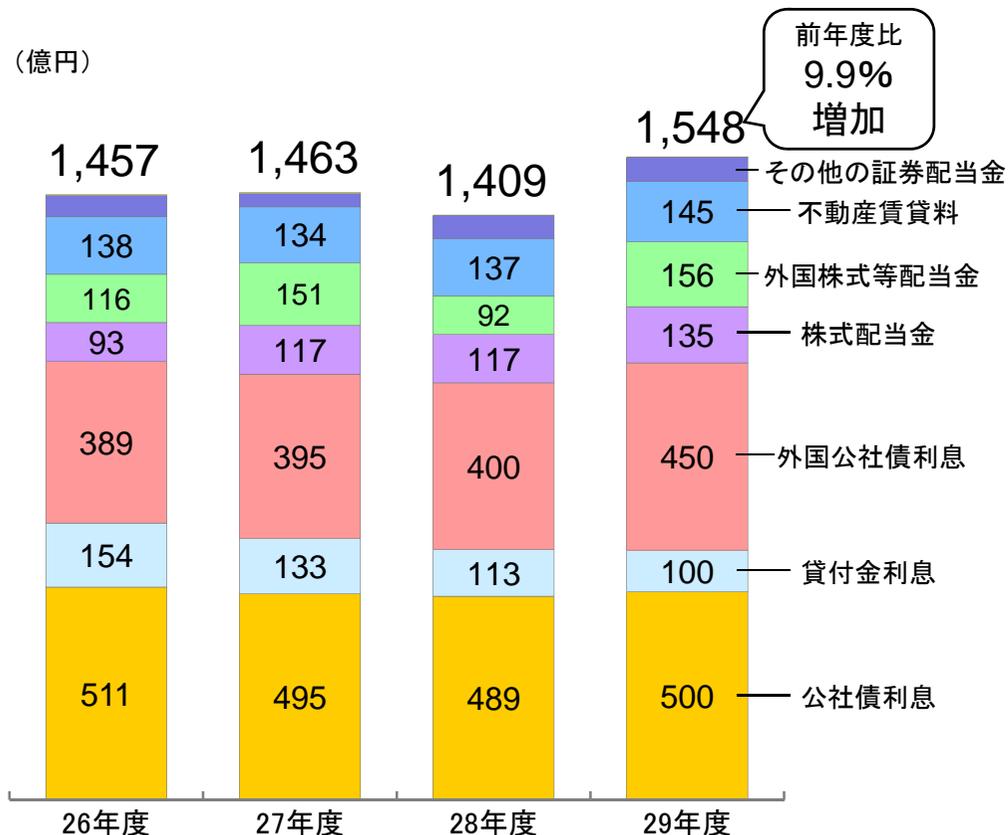
一般勘定資産の資産構成比(BSベース)



- これまでの自己資本の充実度をふまえ、適切なリスクテイクにより安定した収益性を維持するための取組みに注力
- 為替ヘッジコストの上昇を受け収益性が低下したヘッジ付外債の残高を圧縮し、相対的に金利水準の高い豪ドル建や加ドル建債券を中心に通貨分散を図りつつ、オープン外債を積増し

資産運用の状況(富国生命単体)

利息及び配当金等収入※の状況



※売買目的有価証券運用益(損)に含まれる利息及び配当金等収入を含む

資産運用高度化への取組み状況

社債運用に強みのある
米国投資顧問会社ペイデン&リゲル社と提携し
外国社債運用の一部委託とトレーニー派遣を開始

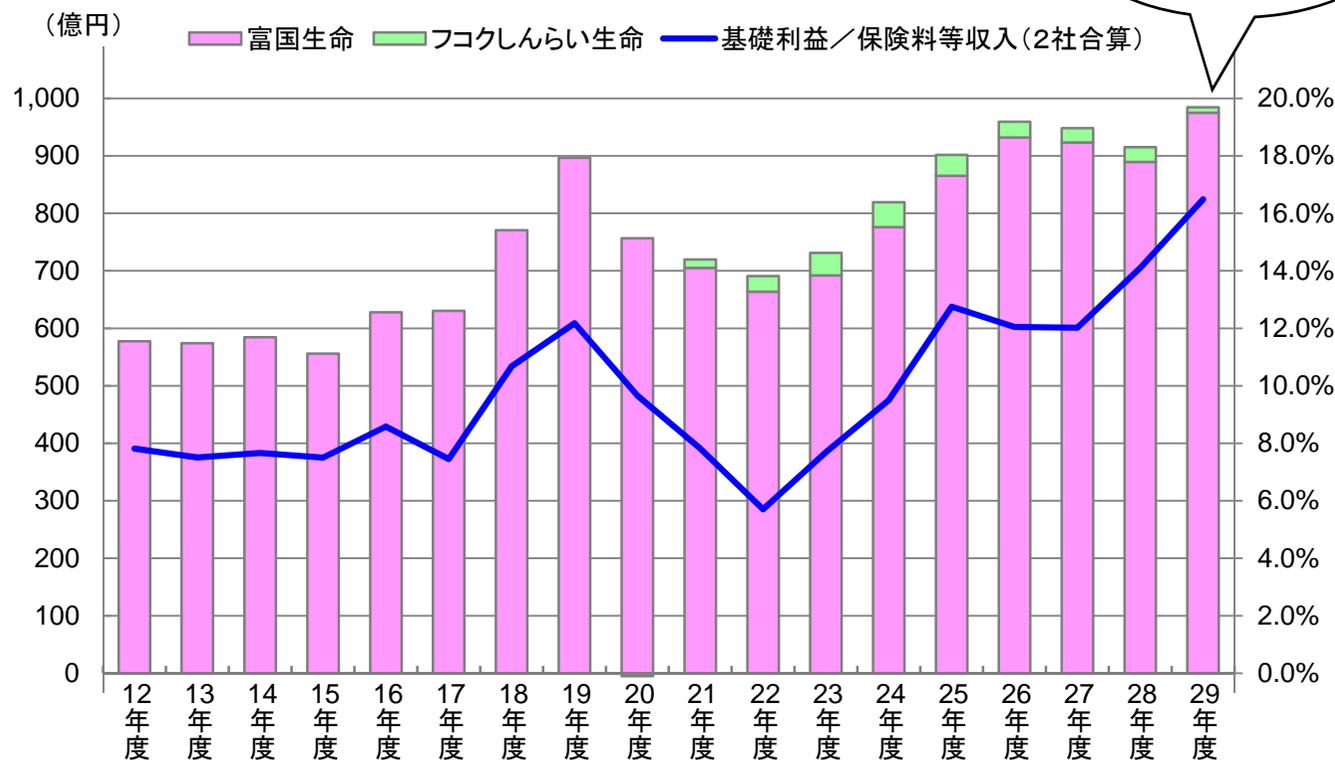
収益性を確保しつつ社会に貢献するため
アフリカの工業化支援を目的とした債券や
グリーン・ボンドなどに投資

より収益性の高い資産を、29年度より
5年間で5,000億円積み増す方針のもと、
初年度は約1,200億円の積増し

- 利息及び配当金等収入は、前年度比9.9%増加の1,548億円と、平成4年度以来25年ぶりの高水準
- 資産運用面で提携したペイデン&リゲル社への外国社債運用の一部委託や、高い利回りが期待できる外国債券や欧米株式の積増しなど収益性を高めるための取組みに注力

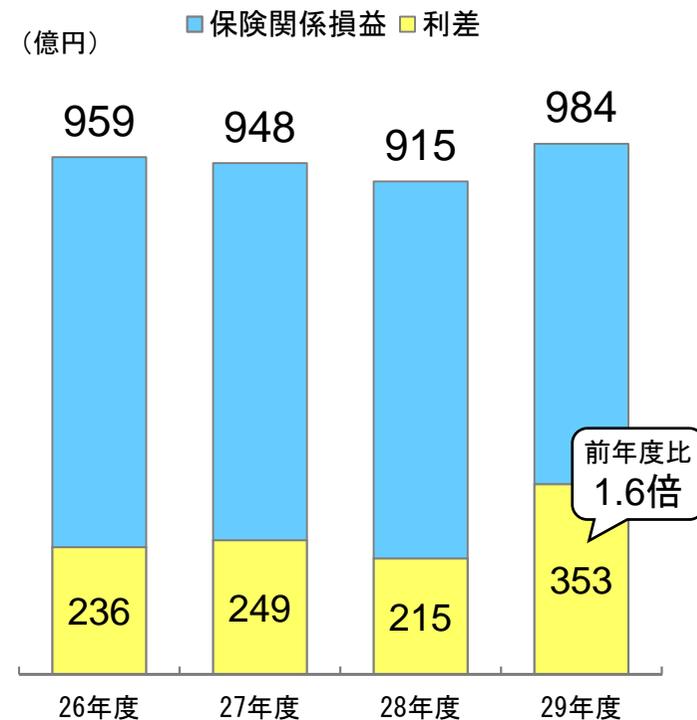
基礎利益の状況(2社合算)

基礎利益の推移



※ フコしんらい生命との合算は平成20年度始から

基礎利益の内訳

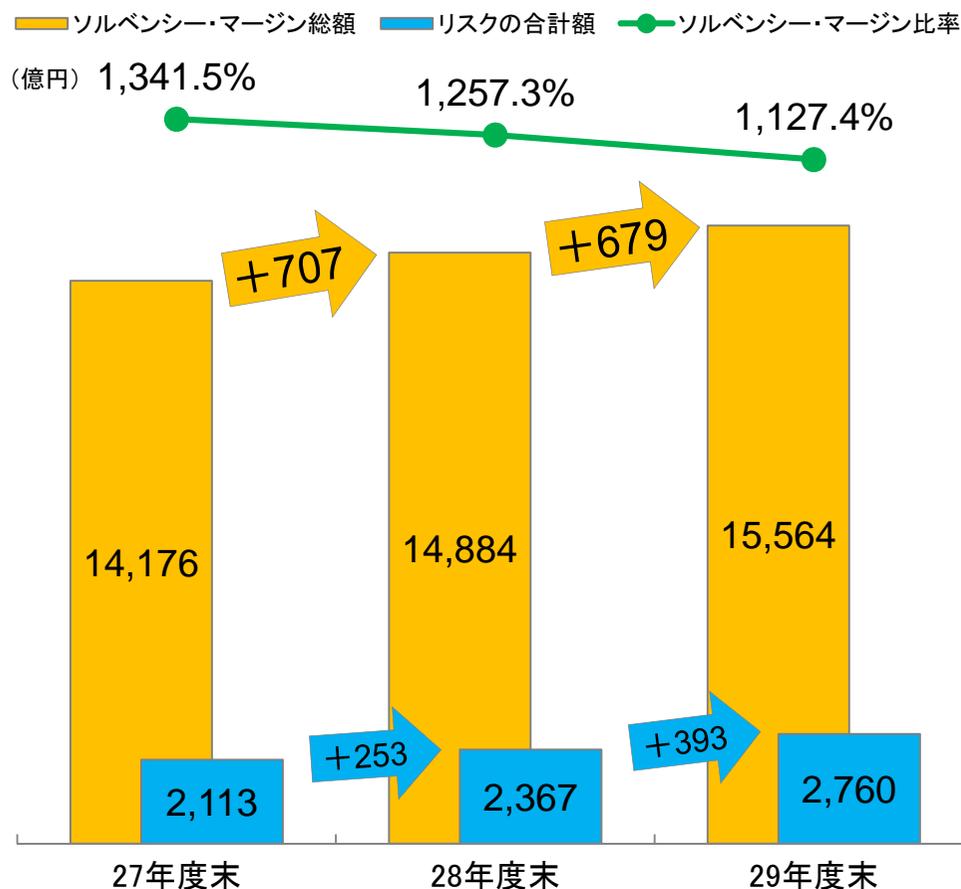


- 富国生命単体の基礎利益は前年度比9.6%増加の974億円となり、平成12年度の開示以来最高
- 2社合算の基礎利益においても、前年度比7.6%増加の984億円となり、開示以来最高
- 保険料等収入に対する基礎利益の割合は16.5%と利益率も高水準

- 利差益は、利息及び配当金等収入の増加により前年度比1.6倍となり、基礎利益の増加に大きく貢献

健全性の状況

ソルベンシー・マージン比率の推移(連結)



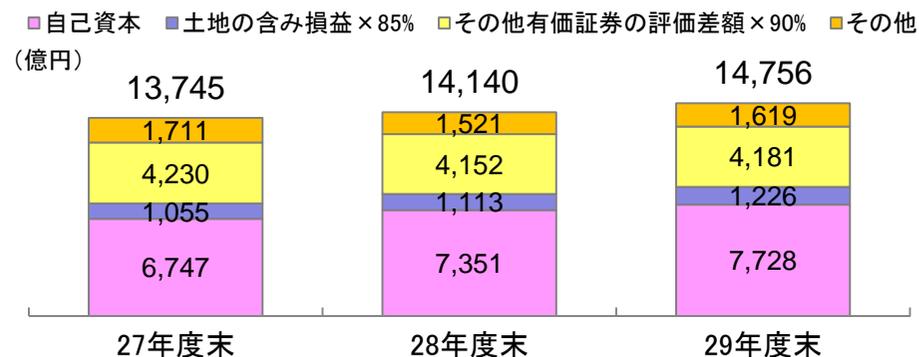
- 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から129.9ポイント低下となったものの、1,127.4%と引き続き高い水準を維持

ソルベンシー・マージン比率の推移(単体)

■ソルベンシー・マージン比率

項目	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
ソルベンシー・マージン比率	1,321.8%	1,214.8%	1,081.2%
計算式	$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$		

■ソルベンシー・マージン総額(A)



■リスクの合計額(B)

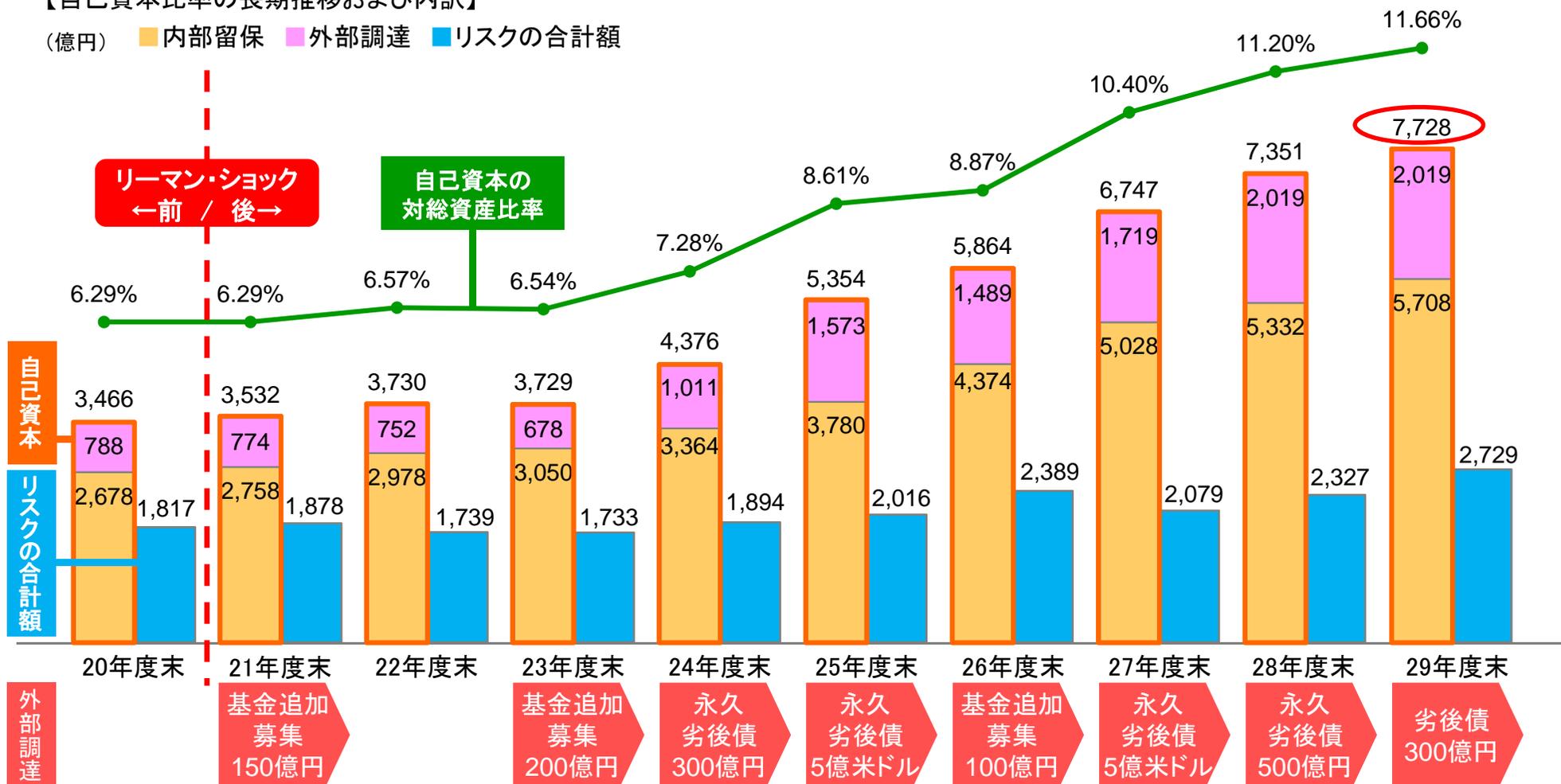


- 内部留保の積増しなどでマージン総額は増加したものの、オープン外債や外国株式の積増しなどによるリスクの合計額の増加により、前年度末から133.6ポイント低下の1,081.2%

オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール(富国生命単体)

【自己資本比率の長期推移および内訳】

(億円) ■ 内部留保 ■ 外部調達 ■ リスクの合計額



- 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- 平成29年度決算において内部留保を376億円積増し
- 自己資本の一層の強化を図ることを目的として、9月に劣後特約付社債(300億円)を発行、平成24年度に発行した永久劣後特約付社債(300億円)は11月に償還
- 統合的リスク管理(ERM)を着実に推進

平成29年度決算(案)にもとづく社員配当金

■ 個人保険・個人年金保険

- 個人保険について 6年連続の増配、増配額は41億円 (6年累計の増配額は98億円)
- 有配当契約の約7割(272万件)に割当て
- 平成30年4月の料率改定を踏まえ、公平性確保の観点から改定前のご契約に対して、予定死亡率の差相当を配当還元
- 健康なご契約者に対する特別配当を引き続き実施

個人保険・個人年金保険の配当金例

<配当金例>

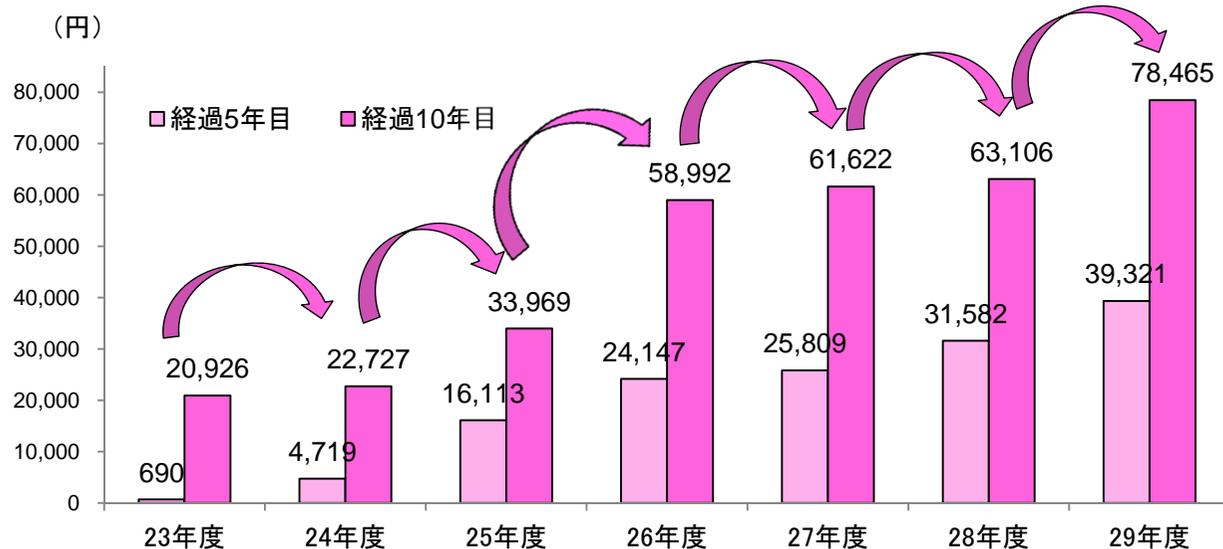
加入年度 (経過年数)	年換算保険料 (月払保険料)	受取配当金(案)	[増配額]
平成25年度 ^(※1) (5年)	156,600円 (13,050円)	39,321円	[+9,300円]
平成20年度 ^(※2) (10年)	174,984円 (14,582円)	78,465円	[+15,310円]

上記は過去5年間に入院給付金のお支払いがないご契約の例示

(※1) 医療パック未来のとびら(40歳加入、男性、口座振替月払契約、死亡保険金3,000万円、入院日額6,000円の5年ごと配当付医療保険)の例示

(※2) 医療パック定期付新積立型介護保険(40歳加入、男性、口座振替月払契約、死亡保険金3,000万円、介護保険金50万円、入院日額6,000円の5年ごと利差配当付医療保険)の例示

配当金例にもとづく受取配当金の推移 **6年連続の増配**



- 相互会社である当社は、お客さまの利益のための経営を創業以来行う。
- 配当還元の充実を通じて、お客さまの実質的な保険料負担の軽減をさらに進める。

(ご参考) 主要業績①

保有契約の状況(富国生命、フコクしんらい生命合算)

個人保険(個人保険+個人年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
個人保険	242,866	99.1	238,647	98.3
個人年金保険	42,817	100.4	41,130	96.1
保有契約高	285,683	99.3	279,777	97.9

新契約高・解約失効高 (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
個人保険	16,382	92.3	14,052	85.8
個人年金保険	2,136	94.2	223	10.4
新契約高	18,519	92.5	14,276	77.1
解約失効高	13,791	97.4	13,341	96.7
(解約失効率)	(4.79%)	△ 0.10 ポイント	(4.67%)	△ 0.12 ポイント

保有契約年換算保険料 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
個人保険	3,190	101.5	3,151	98.8
個人年金保険	2,628	100.8	2,540	96.7
保有契約年換算保険料合計	5,819	101.2	5,692	97.8
うち医療保障・生前給付保障等	1,108	101.5	1,124	101.5

新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料 (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
個人保険	241	89.5	156	64.9
個人年金保険	89	71.1	6	7.5
新契約年換算保険料合計	330	83.7	163	49.4
うち医療保障・生前給付保障等	78	111.1	78	99.8
解約失効	168	92.7	167	99.5
(解約失効率)	(2.92%)	△ 0.30 ポイント	(2.88%)	△ 0.04 ポイント

団体保険(団体保険、団体年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
団体保険	174,460	100.6	173,772	99.6
団体年金保険	21,567	101.8	21,803	101.1

- ・解約失効率は保険金額ベースで前年度比0.12ポイント改善、年換算保険料ベースで前年度比0.04ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比2.2%の減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比1.5%の増加
- ・新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)のうち医療保障・生前給付保障等はほぼ横ばいで推移

(ご参考) 主要業績②

保有契約の状況(富国生命単体)

個人保険(個人保険+個人年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
個人保険	231,606	98.9	227,653	98.3
個人年金保険	27,903	100.3	26,684	95.6
保有契約高	259,509	99.0	254,338	98.0

新契約高・解約失効高 (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
個人保険	15,601	95.6	13,814	88.5
個人年金保険	1,582	156.8	211	13.3
新契約高	17,184	99.2	14,025	81.6
解約失効高	13,135	97.9	12,697	96.7
(解約失効率)	(5.01%)	△ 0.04 ポイント	(4.89%)	△ 0.12 ポイント

保有契約年換算保険料 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
個人保険	2,779	101.2	2,747	98.8
個人年金保険	1,343	101.6	1,296	96.5
保有契約年換算保険料合計	4,123	101.3	4,043	98.1
うち医療保障・生前給付保障等	1,091	101.5	1,107	101.4

新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料 (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
個人保険	212	106.1	148	69.9
個人年金保険	50	148.5	6	12.2
新契約年換算保険料合計	263	112.3	154	58.8
うち医療保障・生前給付保障等	78	111.4	77	99.2
解約失効	131	95.5	129	98.8
(解約失効率)	(3.23%)	△ 0.16 ポイント	(3.15%)	△ 0.08 ポイント

団体保険(団体保険、団体年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	平成28年度末		平成29年度末	
		前年度末比		前年度末比
団体保険	171,515	101.1	170,732	99.5
団体年金保険	21,567	101.8	21,803	101.1

- ・解約失効率は保険金額ベースで前年度比0.12ポイント改善、年換算保険料ベースで前年度比0.08ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比1.9%の減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比1.4%の増加
- ・新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)のうち医療保障・生前給付保障等はほぼ横ばいで推移

(ご参考) 主要業績③

収支の状況

保険関係収支

(富国生命、フコクしんらい生命合算) (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
保険料等収入	6,487	82.2	5,971	92.1
うち個人保険分野	3,965	77.1	3,418	86.2
うち団体保険分野	2,472	91.8	2,504	101.3

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
保険料等収入	5,744	92.9	5,672	98.7
うち個人保険分野	3,232	93.8	3,129	96.8
うち団体保険分野	2,462	91.8	2,495	101.3
保険金等支払金	4,891	82.8	5,011	102.5

(注) 保険料等収入の個人保険分野は個人保険と個人年金保険、団体保険分野は団体保険と団体年金保険の合計額を、それぞれ記載しています。

【金融機関による保険販売の状況】(フコクしんらい生命実績)
(単位: 件、億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
新契約件数	26,733	46.0	5,469	20.5
保険料	504	33.7	57	11.4

※平準払契約については初回保険料の単純合計

資産運用関係収支

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	平成28年度		平成29年度	
		前年度比		前年度比
資産運用収益	1,561	83.7	1,670	107.0
うち利息及び配当金等収入	1,344	97.9	1,492	111.0
資産運用費用	445	97.9	396	88.9
資産運用関係収支	1,115	79.1	1,274	114.2
特別勘定資産運用損益	40	-	65	162.2

基礎利益

(富国生命単体) (単位: 億円)

	平成28年度	平成29年度
基礎利益 A	889	974
危険差+費差	700	650
利差	188	324
キャピタル損益 B	△144	△114
臨時損益 C	△204	△295
経常利益 A+B+C	541	564

(富国生命、フコクしんらい生命合算) (単位: 億円)

	平成28年度	平成29年度
基礎利益	915	984

(ご参考) 主要業績④

資産・健全性の状況

資産の構成

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

区 分	平成28年度末		平成29年度末	
	金額	占率	金額	占率
総 資 産	65,656		66,266	
うち一般勘定資産	64,899	100.0	65,442	100.0
うち 公 社 債	28,435	43.8	28,186	43.1
うち 株 式	6,565	10.1	7,408	11.3
うち 外国証券	17,026	26.2	17,138	26.2
うち 貸 付 金	6,277	9.7	5,937	9.1

含み損益の状況(一般勘定)

(富国生命単体) (単位: 億円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
	差 損 益	差 損 益
有 価 証 券 合 計	7,622	7,624
うち 公 社 債	3,708	3,560
うち 株 式	2,847	3,664
うち 外国証券	907	211
不 動 産 (土地・借地権)	1,159	1,286
合 計	8,781	8,911

健全性を示す指標

(富国生命単体) (単位: 億円)

項 目	平成28年度末	平成29年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	14,140	14,756
リスクの合計額 (B)	2,327	2,729
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,214.8%	1,081.2%

(単位: 億円)

	平成28年度末	平成29年度末
実 質 純 資 産 額	16,236	16,903
対一般勘定資産比率	25.0%	25.8%

(連結ベース) (単位: 億円)

項 目	平成28年度末	平成29年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	14,884	15,564
リスクの合計額 (B)	2,367	2,760
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,257.3%	1,127.4%

(単位: 億円)

	平成28年度末	平成29年度末
実 質 純 資 産 額	18,353	19,034